

## 試験研究成果普及情報

部門	病虫害	対象	普及
課題名：輸出植木ベノミル水和剤根部（根鉢）浸漬処理によるオオハリセンチュウ防除			
〔要約〕 輸出前の線虫対策として、オオハリセンチュウに対してはベノミル水和剤 500 倍液の根部（根鉢）浸漬処理が効果的である。処理 1 週間後には根鉢中のオオハリセンチュウ密度が大幅に減少し、その後屋外に保管しても処理後 3 か月にわたり線虫密度の再上昇は起こらない。			
キーワード <sup>※</sup> 輸出、植木、ベノミル水和剤、オオハリセンチュウ、浸漬			
実施機関名	主 査	農林総合研究センター・生産環境部・病理昆虫研究室	
	協力機関	農林総合研究センター・生産技術部・花植木研究室 千葉県植木生産組合連合会輸出入部会	
実施期間	2012年度～2014年度		

### 〔目的及び背景〕

日本の伝統的な植木・盆栽類の人気海外で高まるなか、千葉県は全国の輸出額の4割を占める重要な生産拠点となっている。しかし、輸出量の増加とともに、輸入国側の検疫で土壌中から植物寄生性線虫が検出される事例が増加し、早急な対策が求められている。これまでにオオハリセンチュウに対して MEP 乳剤 80（スミパイン乳剤）根部浸漬処理の効果が明らかになっているが、根鉢を処理後 5℃ で保管する必要があった。

### 〔成果内容〕

- 1 ベノミル水和剤（ベンレート水和剤）500 倍液の根部浸漬処理はオオハリセンチュウに対して効果が高いが、ネグサレセンチュウに対しては効果が認められない（図 1）。
- 2 ベノミル水和剤処理後、処理 1 週間後には根部のオオハリセンチュウ密度が大幅に低下し、2 週間後には生土 100g 当たり 1 頭以下になる（図 2）。
- 3 処理後に屋外に置いた場合、既存の MEP 乳剤 80 では土壌中に残った卵の孵化により密度が再度上昇するが、ベノミル水和剤では検出数が生土 100g 当たり 1 頭程度の低密度状態が 3 か月間持続する（図 2）。

### 〔留意事項〕

ベノミル水和剤（商品名：緑化用ベンレート水和剤）が、樹木類のオオハリセンチュウに対して、500 倍液の 30 分間根部浸漬の内容で農薬登録の適用が拡大された（平成 25 年 4 月 24 日付け）。

### 〔普及対象地域〕

県内全域

[普及状況]

海匠地域の一部で普及している。

[成果の概要]

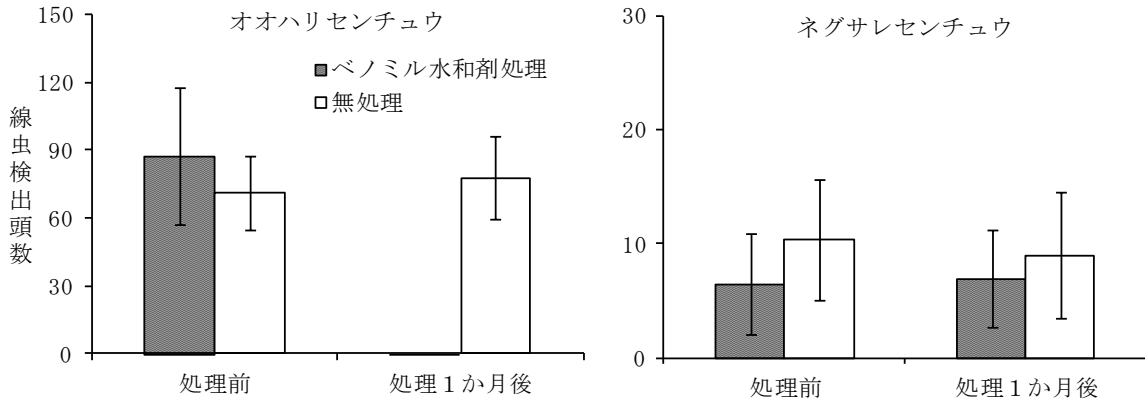


図1 イヌツゲ根鉢中におけるベノミル水和剤処理前後のオオハリセンチュウとネグサレセンチュウの検出頭数

- 注1) ベノミル水和剤処理は500倍液の30分間根部浸漬  
 注2) 線虫検出頭数は生土20g当たり  
 注3) 処理日：平成24年5月21日

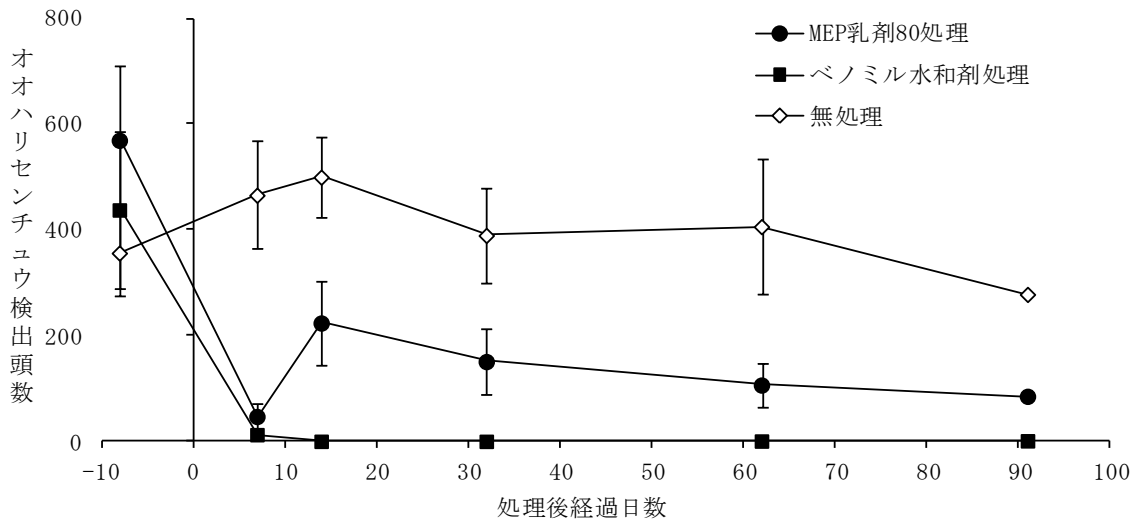


図2 イヌツゲ根鉢中におけるベノミル水和剤及びMEP乳剤80処理前後のオオハリセンチュウ検出頭数の推移

- 注1) ベノミル水和剤及びMEP乳剤80処理はそれぞれ500倍液の30分間根部浸漬  
 注2) 線虫検出頭数は生土100g当たり  
 注3) 処理日：平成24年5月24日

[発表及び関連文献]

- 1 平成 19 年度研究成果普及情報「輸出植木のホスチアゼート剤根鉢浸漬処理による線虫防除」
- 2 平成 25 年度試験研究成果普及情報「輸出用主要植木樹種の根域における植物寄生性線虫の寄生実態」
- 3 平成 25 年度試験研究成果普及情報「輸出植木の MEP 乳剤根部（根鉢）浸漬処理によるオオハリセンチュウ防除」
- 4 平成 25 年度試験研究成果発表会（花植木部門）
- 5 Control of the dagger nematode *Xiphinema brevicolle*, (Dorylaimida: Longidoridae) in wrapped root ball of the Japanese Holly *Ilex Crenata* (Celastrales: Aquifoliaceae:) by immersion in fenitrothion and benomyl solution、Nematological research、2013 年、(投稿中)

[その他]

- 1 プロジェクト研究「輸出用植木の生産安定化に向けた栽培技術の開発」（平成 24～26 年度）
- 2 平成 24 年度試験研究要望課題（提起機関：海匠農業事務所）